

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ナーシング和楽緑天白新築工事	階数	地上3F地下-
建設地	愛知県名古屋市天白区高坂町 75番1	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域、緑化地域他	平均居住人員	106 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2025年9月1日
敷地面積	1,027 m ²	作成者	
建築面積	705 m ²	確認日	2025年9月1日
延床面積	2,047 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.0 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 100% 84% 84% 84% 0 46 92 138 184 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 2.8		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 十分な広さの居室を配置して、機能性や使い易さを確保する一方で、空気室環境の維持、維持管理への配慮、省エネ・省資源対策、敷地外環境への配慮を図っている		
Q1 室内環境 断熱性能、日射遮蔽性能に十分な配慮し、外皮性能を高めている すべてJIS・JAS認証材のF★★★★を採用し、化学汚染物質を排除している	Q2 サービス性能 十分な広さの居室を配置して、機能性・使いやすさを持たせている 抗菌・消臭・防汚性の高い仕上材を採用して、維持管理に配慮している 使い勝手の良い個別換気、個別エアコンを設置している	Q3 室外環境(敷地内) 外構緑化に配慮し、緑の量を確保している
LR1 エネルギー 外皮や窓に十分な断熱性能を持たせて、建物の熱負荷を抑制している	LR2 資源・マテリアル 自動単水栓に加え、ECO5節水便器を採用し、節水を図っている 砂利・割石に再生クラッシャーランを使用し、非再生性資源の使用量を削減している	LR3 敷地外環境 地球温暖化への配慮をしている(ライフサイクルCO₂排出率: 84%) 広告照明を設置せず、光害の抑制を図っている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ナーシング和楽縁天白新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。